



## 参院選移動投票車がやってきた・・・初の参政権の行使

7月15日（火）、第27回参議院議員選挙の移動投票車が昇降口前に設置されました。これは、伊那市選挙管理委員会の配慮により、市内の4高校にモバイル市役所の機能をもつ循環バスが来校し、学校で期日前投票ができるというものです。本校では、令和4年7月の参議院議員選挙、令和6年10月の衆議院議員総選挙に続いて3回目になります。

今年の国政選挙は、1890年に第1回衆議院議員総選挙が実施されてから135周年、男子普通選挙100周年、女性参政権80周年、そして選挙権年齢が18歳に引き下げられてから10年を迎える節目の年の選挙です。

今回の投票車は、伊那市在住で、投票日の7月20日までに18歳を迎える生徒に限定されるなか、60分の設置時間内に数名の生徒と職員が投票を行いました。生徒は、係の方から説明を受けた後、緊張した面持ちでバス内に入場し、受付後に県選挙区、比例代表の順に2枚の用紙を渡され、それぞれ記入後、別の投票箱へ投函しました。投票を終えた生徒からは、共通して「緊張した」という感想が返ってきました。また、「参院選のしくみは大雑把には理解していたが曖昧だった」「車内に機器が一杯あってびっくりした」「テレビの報道は見ていたが、実際に投票する時には迷った」等の感想も聞かれ、初めての投票に満足した様子でした。参政権を行使して自分たちの未来に対する意思表示をする高校生の姿から、投票率の低下に多少なりとも歯止めがかかりそうな期待を持つことができました。一方で、学校では「主権者教育」を実施していますが、実際の投票行動に結びつけるための工夫の必要など課題も感じました。

